

1人1台端末の効果的な活用に向けた取組

越前市万葉中学校

昨年度導入されたタブレット端末について、導入初年度の『まずは使ってみよう』から、2年目の今年度は『効果的に活用しよう』という目標を掲げ、各教科ともステップアップした取組みを行った。次の7項目において、各教科がどのような効果を上げているのか、具体的な活用例を紹介したい。

1. 個に応じた学習〈数学科〉

文字式の利用のカレンダーの説明問題において、タブレットに配布したワークシート上に動かせる枠を用意し、それを各自のタブレット上で動かしながら、どのようなきまりがあるのかを考える手助けとして利用した。説明が苦手な生徒においては、Teams にあらかじめ送っておいたヒントカードを見られるように工夫した。

効果として、数学が苦手な生徒においては、自分のタブレット上で操作が容易にできるため、その枠を動かしながら考えを深めるという進め方ができた。また、ヒントカードについても、今まではほしい生徒に直接教員が渡していたのを、必要なタイミングで入手できるようになり、自分のペースで学習を進めることができるようになった。

2. 思考を深める学習〈保健体育科〉

剣道の授業において、技の習得のための動画を撮影している。撮影した動画を見ながら、何をどうするとさらに良い技の習得につながるかを考える時間を作った。

効果として、自分の動きを客観的に見ることができたり、他人の動きと見比べたりすることができ、どこをどのように直すと技能が高まるのか、自分の考えを活動に生かそうとする生徒が増えた。

3. 表現・制作〈美術科〉

作品の鑑賞のワークシートを作り、作品の写真を貼ったり、説明や感想を入力したりして閲覧できるようにした。また、今までスケッチブックなど紙上でおこなっていた課題の練習を、メタモジを使って行った。

効果として、メタモジ上で友達作品をじっくり鑑賞し評価することができるようになった。また、データの管理がしやすく、年度の最後には自分の作品集が出来上がるようになっている。練習は、絵の具を使わなくても気軽に着色ができるので、表現の幅が広がりより深い発想につながっている。

4. 家庭学習〈国語科〉

授業で使用した文法練習プリントなどをメタモジに入れ、家庭でも復習できるようにしている。

効果として、タブレットはノートやプリントとは違い、簡単に書き直しができたり、繰り返し学習したりすることができ、効率よく学習が進められるという生徒からの感想が上がっている。また、同じくテスト勉強の効率化にもつな

がっているという意見も出ている。ほかにも、これまで膨大なプリントを印刷・配布していたが、これらの数をずいぶん減らすことができ、生徒が配布物を紛失することが減ったり、教員の負担軽減につながったりしている。

5. 発表や意見交換〈英語科〉

教科書の内容を理解し、音読がきちんとできる状態になったあと、教科書のストーリースライドを使って教科書の内容をリテリング（自分の言葉で要約）する活動を行った。まずはペアで場面を説明する英文を作り、そのあと全体でそれらを共有する。内容が良いものは写真で撮りメタモジに記録した。

効果として、この取り組みを行うことにより、生徒の教科書を学習する姿勢に変化が見えるようになった。あとからリテリングがあることを考え、音読練習や内容理解をしておこうという意識が高まった。リテリングのあとはディクテーション（音声を書きとるトレーニング）の活動があるので、教科書の表現を覚えようとするようにもなった。さらには教科書の表現をそのまま使うのではなく、自分の言葉で表そうとする生徒も増えてきている。

6. 協働での意見整理〈家庭科〉

「SDGs を考えた買い物とは何か」という課題においてタブレットを活用した。Forms で作成した消費生活に関するアンケートに答えさせ、課題の提起や、具体的な情報などをメタモジで配付した。チョコレートに関するデータを読み取り、フェアトレード認証商品市場規模の国際比較グラフから、フェアトレードの商品をあまり見かけないのはなぜかということグループで話し合い問題点を探る授業を行った。

効果として、事前アンケート結果においては、お互いに普段からどのような基準で買物をしているか、どのようなことに価値を感じているかなどを知ることができ、この結果を基に問題点を見出すことができた。データの分析や話し合い活動では、タブレットに載せたデータをじっくりと読み取ることができ、意見を整理することにつながった。また生徒同士のノートが共有しやすく、視野を広げたり考えを深めたりすることに役立たせることができた。

7. 学校の壁を越えた学習〈特別支援〉

校区内の小学校の特別支援学級の児童と本校の特別支援学級の生徒とオンラインでつなぎ、お互いに自己紹介をしたり小学生の発表を聞いたりクイズに答えたりする交流を行った。

効果として、オンラインの活動は、画面越しにお互いの顔を見ながら話すことができ、いつもと違う状況で楽しく学習に取り組むことができた。今回は、主に小学生の発表を聞く内容だったが、自分たちのことをこちらからも発信したいという意欲がみられるようになった。

今後に向けた課題として、「教科を越えた活用方法の共有」「蓄積したデータ活用による業務の効率化」などがあげられる。タブレット端末の効果的な活用により、さらなる授業力の向上を目指していきたい。